

初秋の北アルプス表銀座の一部を縦走

燕岳～大天井岳～常念岳

2022年9月27日～30日

<参加メンバー> 4人(男性3人+女性1人)

<天候> 晴れ

<コースタイム>

9月27日(火) 晴れ

6:45 JR宝塚駅～ 14:00 JR穂高駅

14:50 バスにて穂高駅発～ 14:50 中房温泉着、泊

9月28日(水) 終日小雨

6:40 中坊温泉登山口出発～7:20 第一ベンチ 7:30～8:00 第2ベンチ
8:05～8:40 第3ベンチ 8:50～9:30 富士見ベンチ 9:40～10:25
合戦小屋 10:30～11:50 燕山荘 着

14:20 燕山荘～ 14:50 燕岳登頂 ～15:20 燕山荘着

9月29日(木) 晴れ

6:05 燕山荘発～6:50 蛙岩 6:30～10:30 大天荘 着

11:00 大天井岳 登頂～ 11:30 大天荘 着

11:00 大天荘 発～ 13:20 東大天井岳 着

13:30 東大天井岳 発～ 14:40 常念小屋 着 泊

9月30日(金) 晴れ

5:45 常念小屋出発～ 6:40 常念岳山頂 着

7:00 常念岳山頂発～ 8:40 常念小屋着

9:00 常念小屋発～ 10:40 笠原沢～ 11:40 王滝ベンチ着

12:50 一の沢登山口着～穂高駅駐車場～ 21時頃宝塚着 解散

<山行の概要>

前日の夜は風雨とも強く心配していたが28日(水)の朝は小雨となっていた。雨具をつけ登山開始。

中房登山口には20人ほどの登山者が出発御準備をしていた。登山道は滑りやすく登り口から急登が続く。

適度の間隔で休憩場所が設置されていたので、それを目指しての歩行は苦しかったけれどしっかり歩くことが出来た。

雨と霧で周りの景色は何も見えず残念であった。

燕山荘に荷物を置き小休止してから燕岳に登る。奇岩が林立していたが、やはりここでも周りの風景は全く見えなかった。

29日：日が昇るにつけ昨日見えなかった景色がはっきり眼前に現れる。北には昨日小雨の中登った燕岳が北西には槍ヶ岳、穂高連峰がクッキリとみることが出来た。大天井岳を目指してアップダウンを繰り返して歩く。登山道は比較的歩きやすく危険箇所は比較的少なかった。出発して1時間位歩いたところでブロッケン現象に出くわした。荘厳な気持ちになる。小林喜作レリーフの前の鉄梯子を下り、大天荘まで登り、荷物を置いて大天井岳の山頂へのぼる。東大天井から常念小屋までの下りが急で長く感じられた。

30日：ガレ場、岩場の急斜面をジグザグで登り常念岳山頂に着き、足場が不安定で狭い岩場の中で記念写真を撮り常念小屋まで帰る。荷物を背負い下山の途に就く。長い下山道で結構な急斜面で気の抜けない危険箇所が随所であり登りの人も多く離合に注意を要した。



1. 正面左が JR 穂高駅前広場。
右手に中房温泉行のバス停がある。



2. 中房温泉 招仙閣で泊まる



3. 中房温泉側登山口より登る。



4. 登山口からいきなりの急登が続く。



5. 第一ベンチ。



6. 第2ベンチ。



7. 第3ベンチ。



8. 砂利場、岩場の急登が続く。



9. 合戦小屋で小休止。トイレ有り。



10. 合戦小屋あたりのナナカマドの実が真っ赤に色づいていた。



11. ガレ場、岩場が続く。足元も雨で滑りやすい。



12. ようやく燕山荘に到着



13. 雨が小降りになるのを燕山荘で待ち、燕岳頂上に向かい登る。



14. 奇岩が続々登場しその間を登る。気の抜けない時間が続く。



15. 奇岩が続々現れる。



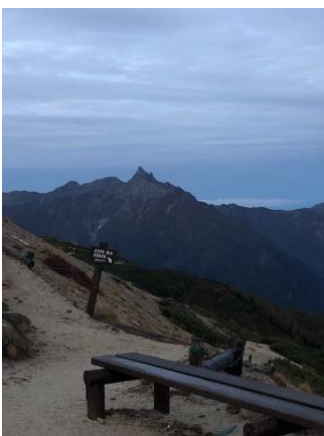
16. ようやく燕岳に登頂。霧と小雨で全く眺望は無い。残念。



17. 早朝の燕山荘から見た日の出。



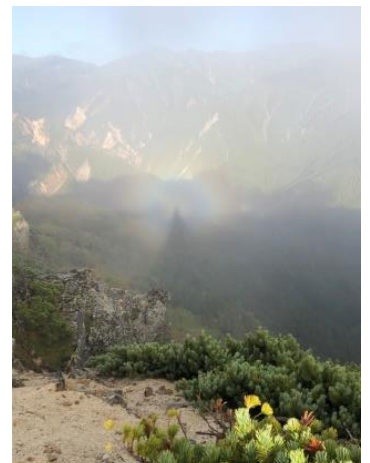
18. 昨日登った燕岳の全貌が見える。



19. 槍ヶ岳の全貌が現れる。



20. 蛙岩や岩峰の切れ目の中を進む。



21. 5:50頃出発し1時間程歩いた時ブロッケン現象が現れる。



22. 大天井岳が見えてくる。



23. 鞍部に小林喜作のレリーフがあり、この前後が鉄梯子やくさり場があった。



24. 槍ヶ岳、常念岳、燕岳の分岐にようやく到着。ガレ場で歩きにくい。



25. 大天井荘を目指しガレ場を通過中一休み。



26. ようやく大天井に到着。ここに荷物を置いて大天井岳の頂上を目指す。



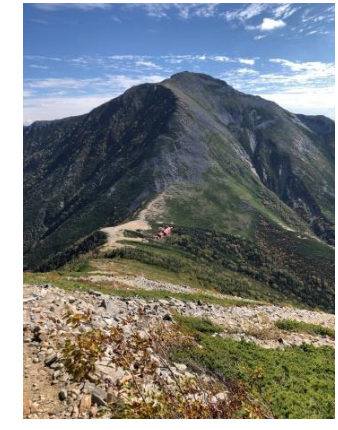
27. 快晴、大天井岳の頂上からは 360° の大パノラマ。槍ヶ岳、穂高連峰が良く見える。



28. 大天井から東大天井岳の頂上を目指す。



29. ガレ場の東大天井岳頂上に登る。次に常念小屋を目指す。



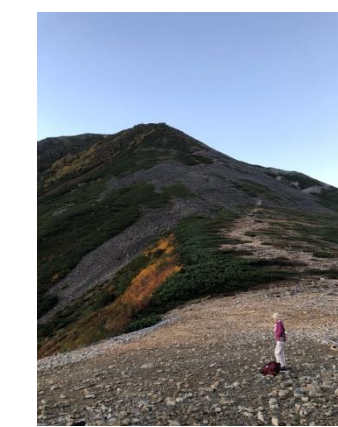
30. 長い下り坂の末ようやく常念小屋と明日登る常念岳が見えてきた



31. 常念小屋に到着。下り坂が非常に長く感じられた。



32. 30日 5時40分荷物を置いて常念岳に登頂開始。



33. 急登のジグザグ道を登る。登山道はガレ場、岩場があり気を抜く暇もない。



34. ようやく常念岳の頂上に辿り着く。頂上は狭く数人しか居場所が無かった。眺望は抜群でした。しかし狭かった。



35. 常念小屋に帰りの沢に向けて下っていく。長い急な下山道で幾つも木製階段があった。下からの登山客が多いのにはびっくりした。



36. 途中4回ほど休憩を取ってようやく一の登山口に着いた。やっとほっとする。タクシーで穂高駅の駐車場まで帰る。